

平成 30 年度
自己評価報告書

平成 31 年 4 月 19 日

中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

目 次

1 学校の理念・教育目標.....	1		
2 本年度の重点目標と達成計画.....	2		
3 評価項目別取組状況.....	3		
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	4	4-14 免許の取得率.....	26
1-1 理念・目的・育成人材像.....	5	4-15 卒業生の社会的評価.....	27
基準2 学校運営.....	8	基準5 学生支援.....	28
2-2 運営方針.....	9	5-16 就職等進路.....	29
2-3 事業計画.....	10	5-17 中途退学への対応.....	30
2-4 運営組織.....	11	5-18 学生相談.....	31
2-5 人事・給与制度.....	12	5-19 学生生活.....	32
2-6 意思決定システム.....	13	5-20 保護者との連携.....	34
2-7 情報システム.....	14	5-21 卒業生・社会人.....	35
基準3 教育活動.....	15	基準6 教育環境.....	37
3-8 目標の設定.....	16	6-22 施設・設備等.....	38
3-9 教育方法・評価等.....	17	6-23 学外実習.....	40
3-10 成績評価・単位認定等.....	19	6-24 防災・安全管理.....	41
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	20	基準7 学生の募集と受入れ.....	43
3-12 教員・教員組織.....	21	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	44
基準4 学修成果.....	23	7-26 入学選考.....	46
4-13 免許の取得・就職率・進学率.....	24	7-27 学納金.....	47

基準 8 財務	48
8-28 財務基盤	49
8-29 予算・収支計画	51
8-30 監査	52
8-31 財務情報の公開	53
基準 9 法令等の遵守	54
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	55
9-33 個人情報保護	56
9-34 学校評価	57
9-35 教育情報の公開	58
基準 10 社会貢献・地域貢献	59
10-36 社会貢献・地域貢献	60
10-37 ボランティア活動	62

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p data-bbox="533 427 651 459">教育理念</p> <p data-bbox="152 507 1099 651">生命の尊厳（命どう宝）を基盤とする豊かな人間性を養い、すべての人々の健康と幸福のために行動する能力を培い、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも積極的に参加する姿勢を持って、看護の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p data-bbox="533 730 651 762">教育目的</p> <p data-bbox="152 810 1099 922">人間を幅広く理解し、看護専門職として日々研鑽の姿勢輔持って基本的な看護技術を高め、統合する力を養い、人々の健康生活の援助活動に協働し、国際的な視野をもつ看護師を育成する。</p>	<p data-bbox="1473 427 1592 459">教育目標</p> <ol data-bbox="1137 515 2085 946" style="list-style-type: none">1. 生命の尊厳を基本とする倫理観を備えた態度を養う。2. 人間のもつ普遍性を理解しながら、個別的な存在として人間をとらえる力を養う。3. 人々の健康があらゆる環境の相互作用で成り立つことを理解する能力を養う。4. 科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的能力を身につけ、看護を発展させ統合する能力を養う。5. 保険・医療・福祉を総合的に理解し、地域の人々の健康に関するニーズを知り、社会資源活用の支援ができる基礎的能力を養う。6. 変化する社会に国際的視野を持って感心を寄せる姿勢と自己啓発できる能力を養う。

2 本年度の重点目標と達成計画

平成 30 年度重点目標	達成計画・取組方法
1. 学生の質の向上 2. 教員の質の向上 3. カリキュラムの質の向上 4. 学習環境の整備 5. 入学生の確保 6. 地域に開かれた学校づくりの推進 7. 学校運営の安定化	1. 学生の質の向上 <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性の醸成 <ol style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動、サークル等の課外活動の推進 ②地域行事、実習施設行事への参加推進 2) 学生個々の能力に応じた計画的な指導 <ol style="list-style-type: none"> ①チューター制、学生の個人目標の設定および個に応じた指導の充実 3) 小集団学習による学業不振学生の強化 4) 自発的に調べる、考える、表現することができる授業設計・実施 5) 看護師国家試験 100%合格への支援 2. 教員の質の向上 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新人専任教員、実習指導教員の指導力の向上 2) 教員の看護実践能力の向上のため実務研修の実施 3. カリキュラムの質の向上 <ol style="list-style-type: none"> 1) 現カリキュラムの運営と評価 2) カリキュラム改正を見据えた教科・教科内容の精選 4. 学習環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設の拡充と連携・強化 2) 看護スキルラボ室の利用促進 5. 入学生の確保 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高校のキャリア教育への協力（看護のしごと出前授業、学校見学等） 2) 学校案内、ホームページ広告に学校の特色及び求める入学生像の提示 6. 地域に開かれた学校づくりの推進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校情報、学校自己評価、学校関係者評価、財務諸表等のネット公開 2) ホームカミングの実施 7. 学校運営の安定化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 退学者・休学者の低減 2) コスト管理による予算執行の遵守

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標・育成人材像は学則等で明確に定められており、学校案内や学生便覧等で具体的に示している。さらに今年度から各フロアの掲示板に「建学の精神」と「期待する卒業生像」を掲示し、学生・教職員に周知した。学外への公表は、学校案内、ホームページで行っている。</p> <p>教育課程は厚生労働省の保健師助産師看護師養成所指定規則を満たしている。昨年度のアンケート結果（平成 28 年度卒業生と雇用施設の指導者を対象に看護実践能力評価の調査を行った。）から見えてきた看護教育に不足している接遇教育と自己教育力に対し、積極的に協同学習を取り入れた。また、1～3 学年縦の連携が図れるよう兄弟学級での情報交換会を行うなど、先輩として、後輩として、学生自ら考え学び教えあう機会を多くした。</p> <p>実習は新たな実習施設を増やし、実習指導は実習施設の協力を得ている。施設側と学校側双方の意見交換会は、少数の施設で行っているが、来年度は主たる実習施設と行えるよう調整し、意見を教育内容、実習展開に反映させていきたい。</p> <p>受験応募者の獲得に向けて、広報委員を中心に広報活動を行っているが、職員全体が広告塔として活動できる取り組みを展開していきたい。</p> <p>次年度は看護基礎教育のカリキュラム改正に向け、現カリキュラムの評価を行い、新カリキュラム構築に向けて準備をする必要がある。カリキュラム改正の動向を捉えつつカリキュラム委員会の活動を推進していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念等は、学期開始や実習前ガイダンスなどにおいて、理念、教育目的について説明し、期待する卒業生像を目標に日々研鑽することを説明する。 ・ホームページでは、日々の教育活動が分かりやすく、見やすく情報発信できるようコンテンツの充実を図る。 ・封筒への印刷を在庫が無くなり次第行う。 ・実習施設の指導者や卒業生の意見を教育内容に反映させる。 ・全実習終了後に、実習の振り返りと課題について、実習施設と教員双方による意見交換を行う機会を設ける。 ・全職員が学校の広告塔であることを認識し、広報活動ができる人材の育成 ・平成 31 年度教育課程編成委員会の活動計画の作と活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴ある教育活動 ①問題解決への意思決定ができる領域別看護過程の展開 ②協同学習による協調性、コミュニケーション能力の育成 ③看護 OSCE（客観的臨床能力試験）による看護実践能力の育成 ④実習施設への就職者も多く、卒業生が実習指導を行える状況になっている。また、卒業生の来校も多く、卒業後の情報が得やすい。

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<p>①理念に沿った目的・育成人材像になっているか</p> <p>②理念等は文書化するなど明確に定めているか</p> <p>③理念等において看護専門職の特性は明確になっているか</p> <p>④理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか</p> <p>⑤理念等の浸透度を確認しているか</p> <p>⑥理念等を社会のニーズに的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか</p>	3.6	<p>①②③理念・目的・育成人材像は、建学の精神である博愛精神、互助精神を受け継ぎ、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間性を持つ看護師を育成するとして明確である。</p> <p>④学生に対しては、これまで同様入学時や実習前に理念等の確認を行っている。今年度から各フロアの掲示板に「建学の精神」と「期待する卒業生像」を掲示した。保護者、関連業界には機会あるごとに直接説明している。封筒への印刷は、在庫があるため未実施。</p> <p>⑤理念の浸透度は、学生の学校評価アンケートの中で質問項目にあげ確認している。</p> <p>⑥毎年検討会を持ち社会のニーズに即した理念等になっているか検討するが、修正まで至っていない。</p>	<p>・入学時、実習前、夏季休暇明けなど機会あるごとに理念等確認する。</p> <p>・後援会総会において説明、学校便りに理念等を掲載する。また、封筒への印刷を行う。</p> <p>・理念等社会のニーズに的確に対応させるためにも、看護基礎教育検討会の動向を確認しながら、理念の見直し、カリキュラムの評価修正が必要になる。</p>	<p>理念等を記した文書、印刷物、ホームページ</p> <p>学則、諸規定、学生便覧</p> <p>講義履修要項、実習要項</p> <p>学校案内</p> <p>カリキュラム検討委員会会議録</p> <p>教育課程編成委員会会議録</p> <p>施設、設備一覧</p> <p>中期的な将来構想、中期事業計画</p>

<p>1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか</p>	<p>①看護関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ②教育課程、授業計画等の策定において看護関連業界等からの協力を得ているか</p>	<p>3.4 ①看護師として求められる資質は期待する卒業生像として明確にしている。 ②教育課程の策定は厚生労働省のガイドラインに基づく内容を十分満たしている。看護学臨地実習は、今年度、新たな実習施設を導入し、認可された実習施設の協力を得ている。実習終了後の施設側と学校側双方の意見交換会は、一施設のみの実施となっている。 外来講師と連携をとりながら協同学習を進めることができた。</p>	<p>・全実習終了後に、実習の振り返りと課題について、全実習施設と教員双方による意見交換を行う機会を設ける。 ・次年度も外来講師との連携を密にする。</p>	<p>学則、諸規定 学生便覧 講義履修要項 実習要項 学校案内 教育課程検討委員会会議録</p>
<p>1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動②取り組んでいるか</p>	<p>①学校の特色を明確化しているか ②特色ある教育活動、職業実践教育に取り組んでいるか</p>	<p>3.3 ①学校の特色は教育情報に反映している。 ②主体的に学び、問題解決への意思決定、実践能力の向上を目指し、各専門領域で紙上事例の演習やシミュレーション学習を取り入れている。また、学デモ先生や協同学習、演習・グループワーク等で博愛精神・互助精神を育てている。さらに、1～3学年縦の連携が図れるよう兄弟学級での情報交換会を行うなど、先輩として、後輩として、学生自ら考え学び教えあう機会を多くした。今後の学生の変化に期待する。 ③今年度、当校の建学の精神、教育目的、目標、期待する卒業生</p>	<p>・学校の特色を明文化し、共通理解と周知が必要となる。また、学校の特色は学校の売りでもあり、他校とどう違うのか、示していく必要がある。</p>	<p>学則、諸規定 学生便覧 講義履修要項 実習要項 学校案内 教育課程検討委員会会議録 学生募集要項</p>

			<p>像をふまえた求める入学生像を明文化し、学生募集要項に明記した。</p> <p>ホームカミングデーを開催し、卒業生が母校に戻り、同期の卒業生や教員と語り合いながらリフレッシュできる機会とした。</p> <p>「国際的な視野を持つ看護師の育成」は、外来講師を迎え、国際看護についての講義を行っているが、特色のある教育活動としては未だ弱い。</p>	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<p>①中期的（3～5年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか</p> <p>②学校の将来構想を教職員に周知しているか</p> <p>③学校の将来構想を学生・保護者・看護関連業界等に周知しているか</p>	3	<p>①中期的計画は年度初めに教職員に人的、物的資源等説明している。</p> <p>②設置主体である医師会双方で話し合いがされていない。医師会総会では、看護師教育の高等教育化、専門学校入学者の学力低下等学生の動向を報告している。</p> <p>③学生・保護者・看護関連業界等に周知していない。</p>	<p>・学校の将来構想について医師会、学校双方の意見交換を行い、学生・保護者・看護関連業界等に周知していく。</p> <p>・年1回、設置主体である医師会双方での将来構想についての話し合いの機会を持つ必要がある。</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目標・人材育成像は明確に定められ、明文化している。学生や保護者への周知は不十分であり、機会あるごとに周知するよう改善していく。また、教育理念を実現するための教育課程は、実習施設、卒業生や在校生の意見を参考に、現カリキュラムの評価を進めている。今後のカリキュラム改正に向け、社会の動向、地域のニーズ、学生の傾向やレディネスに対応できる教育課程の構築を目指したい。</p> <p>将来構想については、設立者である医師会と学校との話し合いの席を設け、学生の現状、入学者の傾向等を伝えるなど意見交換をしていきたい。</p>	<p>本校と同地区に看護・介護の専門学校が設立されるため、入学志願者の減少を危惧するところであり、本校の特色を強みにして職員一致団結して前進していきたい。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標を達成するために運営方針を明確に定め、教職員に周知している。今年度は学校評価を重点目標に掲げ、教職員全員で評価を行い、改善策に取り組んでいる。</p> <p>本校の学校運営方針は、「入口を固める」、「校内を固める」、「出口を固める」良循環型の学校づくりをめざしている。平成 30 年度重点目標は、①学生の質の向上、②教員の質の向上、③カリキュラムの質の向上、④学習環境の整備、⑤入学生の確保、⑥地域に開かれた学校づくりの推進、⑦学校運営の安定化とした。</p> <p>学校重点目標は明文化し、新年度の職員会議で周知している。重点目標は、学校評価と関連する内容であり、学校評価の基準に沿った各活動から目標の浸透度は評価できる。中間評価において評価に対する教職員からの意見を参考に修正を加え、年度末に評価を行なっている。</p> <p>学校運営のための事務組織、教員組織、学生組織は整備されている。また、設置主体である医師会の就業規則に準じるが、ワークライフバランスを推進した規則になっている。</p> <p>教職員の採用基準は、「看護師等養成所における看護教員に関する規程」に準じ専任教員となることができる条件を満たした者を採用している。</p> <p>意思決定システムとして組織図を明確にしている。医師会の理事会を経て決定される事項、学校運営会議を経て決定される事項など、最終的に決定を下す会議があることを全職員に周知することが必要である。</p> <p>情報システムを構築して業務の効率化を図っている。</p>	<p>学校運営方針、重点目標、学年歴、実習施設一覧、非常勤講師名簿、学校組織図、各種会議の目的、事務業務分掌、教務業務分掌、実習施設担当表、教員実習配置・時間数、教員別担当時間数、職員研修計画など帳表になっているのを整理し、事業計画として冊子にして配布している。</p> <p>職員ひとり一人が学校運営に関わっているという意識を持つことで、組織の活性化につなげられるよう期待したい。</p> <p>システムの共有フォルダーの整理を行い、タイムリーに最新の情報が入手できるようにしていく。</p>	<p>本校の学校運営方針は、「入口を固める」、「校内を固める」、「出口を固める」良循環型の学校づくりをめざしている。入学から卒業までの出口保障を行なうことも学校の役割と考えている。また、校内を固めるは、教員は学校運営の要であり、教員の授業が魅力あるものでなければ、学生は授業を楽しめないと考える。教員は教授方法に協同学習の手法を取り入れ、試行錯誤のなかで魅力ある授業を設計している。</p> <p>教員の意欲及び資質の向上への取り組みは、研修、学会への参加だけではなく大学院への進学も推奨している。</p>

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	評価	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	①運営方針を文書化するなど明確に定めている ②運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めている ③運営方針を教職員等に周知している	3.5	①②③運営方針は文章化し、年度初めに教職員に周知し、重点目標達成に向け計画や具体的実施策を決定している。 中間期と年度末の職員会議において評価している。	運営方針は重点目標、達成に向けた具体的実施計画になっている。	平成 30 年度学校重点目標、具体的実施計画 平成 30 年度学校重点目標評価

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の学校運営方針は、「入口を固める」、「校内を固める」、「出口を固める」良循環型の学校づくりをめざしている。入口を固めるは、入学生の選考、学校ガイダンス、入学前準備教育がある。校内を固めるは、カリキュラムの充実と魅力ある授業計画、教員の質向上、学習環境の整備、学生指導、校内風土の改善等がある。出口を固めるは、看護師国家試験合格、就職・進学への支援、卒業生像の評価である。入口を固める、校内を固める、出口を固める、の各項目については、学校運営方針として職員全体に周知している。</p> <p>平成 30 年度重点目標は、重点的に改善すべき項目を 7 項目掲げ、明文化し、周知している。教育の対象である学生の質、教員の質、カリキュラムの質、学習環境等を重点に、中間評価において教職員からの意見を参考に修正を加え、年度末に評価を行なっている。</p>	<p>本校の学校運営方針は、「入口を固める」、「校内を固める」、「出口を固める」良循環型の学校づくりをめざしている。入学から卒業までの出口保障を行なうことも学校の役割と考えている。また、校内を固めるは、教員は学校運営の要であり、教員の授業が魅力あるものでなければ、学生は授業を楽しめないと考える。教員は教授方法に協同学習の手法を取り入れ、試行錯誤のなかで魅力ある授業を設計している。</p>

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	①中期計画（3～5年程度）を定めている ②単年度の事業計画を定めている ③事業計画に予算、事業目標等を明示している ④事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしている ⑤事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしている	3.5	①中期計画を定めていない ②単年度の事業計画を定めている。 ③事業計画の執行は関連する事業を各委員会が担当する。受験生の確保事業では、後方委員会が執行部となり事業展開する。Pマーク取得事業では、事務部長と教務部長が執行部として機能している。 ④新事業では図書の電子化を計画している。執行体制、業務分担は今後検討の段階である。 ⑤検討事項	・事業計画書として冊子にして職員に配布する。 ・学校の単年度事業計画と中期事業計画を明確化し文章化する。	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は単年度計画となり中期計画が立案されていない。計画立案のためには医師会と学校側双方の意見交換が必要と考えるが、学校側から中期計画案を提示していくことも必要である。	職員ひとり一人が学校運営に関わっているという意識を持つことで、組織の活性化につなげられるよう期待したい。

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置主体である医師会は組織運営を適切に行っている	①理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会理事会は隔週で開催され、学校関係の議案には学校長、事務部長、教務部長が出席する。 ・議事録は適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録は医師会ネットワークから閲覧できる。 	医師会理事会会議録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営に必要な事務及び教員学生組織を整備しているか ②現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備している ③各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ④会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしている ⑤会議、委員会等の議事録は、開催毎に作成している ⑥組織運営のための規則・規程等を整備している ⑦規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正している ⑧教職員の意欲及び資質の向上への取り組みを行っている 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①②③事務及び教員、学生組織は整備されている。 組織規程や組織図は整備され教職員に周知されている。 ④⑤会議、委員会等の決定権限、委員構成等は規程等で明確にされ、議事録は開催毎に作成している。 ⑥⑦規則や規定は整備され必要時職員会議を持って改正している。 ⑧教職員には研修計画の希望調査を行い、業務調整を行い希望通りの研修、学会参加が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 就業規則ほか各種諸規定は、共有フォルダーから閲覧できるようにしている。 必要な情報がすぐに閲覧できるようフォルダー整理が必要とされ、担当者による整理が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育会議資料、議事録 職員会議録 管理者会議録 学校運営会議録 就業規則ほか各種諸規定 学則、内規 学生便覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校は人、物、金、情報、時間を有効に活用しながら運営し、学校運営のための事務組織、教員組織、学生組織は整備されている。設置主体である医師会の就業規則に準じ、ワークライフバランスを推進した就業規則である。	教員の意欲及び資質の向上への取り組みは、研修、学会への参加だけでなく大学院への進学も推奨している。

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<p>①採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用している</p> <p>②適切な採用広報を行い、必要な人材を確保している</p> <p>③ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用している</p> <p>④昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用している</p> <p>⑤人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用している</p>	3	<p>①採用基準、採用手続きは明確で適切に運用している。</p> <p>②採用広報は最終的な手段として用い、実習施設など関係施設、団体に声掛けを行い確保できている。また、事務部門は、医師会併設の人材派遣センターから採用されている。</p> <p>③④給与支給や昇任・昇給等は基準・規程は整備され適切に運用している。</p> <p>⑤医師会は人事考課制度を運用しているが、看護学校では制度は使っていない。</p>	<p>・看護協会ナースセンター、ハローワーク等に求人広告を提出し、広く多くの人材から採用するという方法も取り入れる。</p> <p>・本校ホームページに求人広告を掲載している。</p>	<p>修業規則 給与規定</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教職員の採用基準は、「看護師等養成所における看護教員に関する規程」に準じ専任教員となることのできる条件を満たした者を採用している。人事は、次期管理者の育成も考慮して役割を担える配慮が必要である。人事異動の前に面接を行っている。</p>	<p>平成 30 年度沖縄県看護教育協議会作成の看護教員キャリアラダーができたことで、人材育成に参考とすることができている。</p>

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<p>①教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備している</p> <p>②意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしている</p> <p>③意思決定システムは、規則・規程等で明確にしている</p>	2.6	<p>①医師会組織図、学校組織図は教職員が閲覧できるよう共有フォルダーにしている。</p> <p>②会議規程のなかに学校運営会議、管理者会議、職員会議等の役割・機能・構成メンバー等記載している。</p>	<p>・意思決定システム自体が理解されていないせいか、評価が低い傾向にある。</p> <p>・平成31年度自己評価を実施する際、事前に意思決定のルールや会議規程について説明し周知する。</p>	組織図 職務所掌 会議規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定システムとして組織図、会議規程を明確にしている。	意思決定システム自体の言葉が難しいようで評価が低い傾向がある。

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	評価	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	①学生の学業に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか ②情報システムを活用しタイムリーな情報提供が行われている ③データを更新し最新の情報を蓄積しているか ④システムのメンテナンス及びセキュリティは適切である	2.7	①②③④情報システムを構築し、情報の共有化・効率化を図っている。共有するフォルダーの定期的点検を行い、保存する資料、削除する資料など精選する作業がされていないため、古いデータの蓄積がみられる。システムのメンテナンス、セキュリティは、医師会システムサポートが対応している。	システム管理を担当している事務職員一人では共有フォルダーの整理が困難なため、教員も協力しフォルダー整理を進めている。	バックアップシステム サーバー 共有フォルダー パソコン管理 契約管理会社 中部サポートシステム 学内パソコン台数 教職員 常勤 43台 非常勤 3台 学生 48台

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報システムを構築して業務の効率化を図っている。システムの共有フォルダーの整理を行い、タイムリーに最新の情報が入手できるようにしたい。	現在、医師会においてプライバシーポリシー取得のための作業が進められている。さらに学校、学生、職員の個人情報のセキュリティなどの体制が整えられると期待する。

基準 3 教育活動

大項目総括	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程は保健師助産師看護師養成所指定規則を遵守し、本校の教育目的・教育目標を反映している。教育理念に沿った教育課程を編成、実施している。また、教育課程は看護師免許取得を達成目標として構築されている。講義履修要項は毎年評価修正している。科目の目標や教育方法、単位数・時間数は適切である。授業形態や授業方法は適切であり工夫されている。</p> <p>教育課程への外部の意見は、積極的に実習施設に働きかけ、卒業生の活用、実習施設の指導者の協力を依頼して双方の教育力向上につなげたい。</p> <p>成績評価の基準について、学生便覧に明示している。入学時に学生および保護者に説明し、在校生には、新学期にガイダンスをおこなっている。また、単位認定および卒業認定は認定会議において適正に判定している。</p> <p>看護師免許取得に向け看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインを遵守し、科目はすべて必修科目としている。</p> <p>看護学校運営の要である専任教員、非常勤教員の資格・要件については厚生労働省の保健師助産師看護師等学校養成所指定規則を遵守している。教員の採用計画は長期的視点で定めている。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程への外部の意見の反映については、積極的に実習施設、卒業生の意見を聴取することが必要である。また、授業評価についても時期、方法を検討する。 	<p>現教育課程は毎年の集中会議の中で領域毎に検討された講義計画、内容を教員全体で評価修正している。今後、カリキュラム改正に向け、既存のカリキュラム検討委員会の意見を参考に、現教育課程を評価、検討する委員会を新しく立ち上げる準備を行なう。</p> <p>意見箱からの意見は、非常勤講師、専任教員の授業方法、内容等もある。学生の意見を授業に反映させていく。</p>	<p>教育活動の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護を必要としている人々の状態を識別し、問題解決への意思決定ができる領域別看護過程を展開している。 ② グループワーク、ふり返りなど集団で学ぶ協同学習を取り入れ、学ぶことの楽しさ、協調性、コミュニケーションを育成している。 ③ 看護 OSCE（客観的臨床能力試験）の模擬患者に実習施設の本校卒業生に参加協力を求め、双方にとって教育力向上の機会になっている。 <p>授業方法は目標に照らし、学生が自ら調べる、考える、表現することができる教育方法を実施している。表現の方法はプレゼンテーション、ポスターセッション、ロールプレイ、口頭等の発表をおこなっている。</p>

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	評価	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	①教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めている ②教育に関する方針を定めている ③教科以外の活動を定めている。	3.3	①②教育課程の編成方針、実施方針は明確に定め文書化している。 現教育課程は毎年の集中会議の中で領域毎に検討された講義計画、内容を教員全体で評価修正している。 ③理念に沿って教育・目的を踏まえた教化外活動（学校行事等）を実施している。	現教育課程は毎年の集中会議の中で領域毎に検討された講義計画、内容を教員全体で評価修正している。今後のカリキュラム改正に向け、現教育課程を評価、検討する委員会を設ける予定でいる。	学生便覧 学校案内 講義履修要項 教化外活動 実習要項
3-8-2 修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	①目標とする教育到達レベルを明示している ②教育到達レベルは、理念等に適合している ③看護師免許の取得指導・支援体制を整備している	3.3	①②目標とする教育到達レベルは明示されており、理念等に適合している。 ③看護師免許の取得の義及び取得指導・支援体制を明確にしている。 ④看護師免許取得に向けて国家試験対策が整備している。		学生便覧 学校案内 講義履修要項 実習要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念に沿った教育課程を編成、実施している。 教育課程は看護師免許取得を達成目標として構築されている。	今後のカリキュラム改正に向け、現教育課程を評価、検討するカリキュラム委員会の活動を再開する。

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にしているか	<p>①教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしている</p> <p>②議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしている</p> <p>③授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分している</p> <p>④修了に係る授業時数、単位数を明示している</p> <p>⑤授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供している</p> <p>⑥授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択している</p> <p>⑦授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫している</p> <p>⑧看護師養成教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分している</p>	3.3	<p>①②教育課程の編成は教育課程検討委員会を中心に行い、教育会議を持って決定している。また、編成過程は議事録に記載されている。</p> <p>③④授業科目は適切に配分され、授業時間数・単位数を明示している。</p> <p>⑤各科目の目標、教育内容、教育方法（授業形態・授業方法）は工夫している。</p> <p>⑥講義履修要項を作成しており8月に教員全体会議を持ち領域毎に検討した講義計画の評価修正を行っている。</p>	<p>現教育課程は毎年の集中会議の中で領域毎に検討された講義計画、内容を教員全体で評価修正している。カリキュラム改正に向け、現教育課程を評価、検討する。</p> <p>教育会議において次年度の講義計画について、各領域間の情報交換を行う予定である。</p> <p>授業方法は目標に照らし、調べる、考える、表現することができる教育方法を実施している。調べるではフィールドワークを行い、表現方法は、プレゼンテーション、ポスターセッション、ロールプレイ、口頭発表等を用いている。</p>	<p>保健師助産師看護師養成所指定規則</p> <p>学生便覧</p> <p>講義履修要項</p> <p>実習要項</p> <p>時間割</p> <p>各学年カリキュラムアンケート</p>
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<p>①教育課程の編成において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っている</p>	3.7	<p>①②③在校生の授業評価や卒業生の意見を教育課程に反映させている。また、実習施設の指導者に学内演習協力して頂き意見を反映させている。</p>	<p>実習先の指導者が各領域において学内演習に参加できるよう実習先と調整していく。</p>	<p>授業評価</p> <p>在校生による学校評価アンケート</p>

3-9-2 の続き	②教育課程の編成において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っている ③看護師養成教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っている		実習調整会議の場や直接施設を訪問して意見交換を行い教育課程へ反映させている。 実習施設によっては施設の指導者と教員による実習評価会を行っている。 ホームカミングデー時、現状や学校に関する意見の聴取を行った。		意見箱からの意見 実習先との調整事項の記録
3-9-3 実践的な職業教育（実習）が体系的に位置づけられているか	①実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムになっている ②実習体系について実習施設の意見を反映させている	3.5	実習アンケート分析を行い、結果を実習調整会議において報告している。		実習要項、実習指導要綱 実習アンケート分析結果 実習調整会議資料 各学年カリキュラムアンケート
3-9-4 授業評価の実施・評価体制はあるか	①授業評価を実施する体制を整備しているか ②学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っている ③授業評価の実施において、看護関連業界等との協力体制はある ④教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用している	3.5	①④専任教員の授業評価の時期は、科目終了後にアンケートを実施している。教員は学内の授業評価を用いて評価しているが、全教員に公表していない。 非常勤講師はすべての講師ではないが、各講師による評価表を用いて評価を行い、結果をいただいている。 ③看護OSCEに模擬患者として参加した卒業生の評価を次年度に活用している。	前期・後期に分け授業評価を実施する体制に持っていく。 外来講師の授業評価の実施を行う必要がある。 外来講師の授業評価をマークシートで行うための予算を計上するよう事務部との協議し承諾が得られた	授業評価 意見箱からの意見 クリティカルシンキング尺度を用いた看護過程の評価

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程は保健師助産師看護師養成所指定規則を遵守し、本校の教育目的・教育目標を反映している。講義履修要項は毎年評価修正している。科目の目標や教育方法、単位数・時間数は適切である。授業形態や授業方法は適切であり工夫されている。</p> <p>教育課程への外部の意見は、卒業生の活用、実習施設の指導者の協力を依頼して双方の教育力向上につなげたい。</p>	<p>看護 OSCE（客観的臨床能力試験）の模擬患者として卒業生に来ていただき、教育方法など意見交換を行い双方にとって教育力向上の機会になっている。意見箱からの意見は、非常勤講師、専任教員の授業方法、内容等もある。学生の意見を授業に反映させていく。</p>

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	評価	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	<p>①成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示している</p> <p>②成績評価の基準について、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいる</p> <p>③入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか</p>	3.8	<p>①②成績評価の基準は学生便覧に明示し入学時に学生および保護者に説明している。また、単位認定および卒業認定は認定会議において適正に判定している。</p> <p>③入学前の履修科目については規定に照らして認定している。</p>		<p>学生便覧</p> <p>講義履修要項</p> <p>実習要項</p> <p>単位履修認定会議資料</p> <p>卒業認定会議資料</p>
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	①学生のコンテスト参加における受賞状況、業績を把握しているか	3.3	<p>①今年度は応募期間の期限が遅れ、コンテストへの参加ができなかった。</p> <p>②コミュニケーション能力が認められたものとして、全国レベルのスターバックス接客大会で全国第2位を受賞した。</p>		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価の基準について、学生便覧に明示している。入学時に学生および保護者に説明し、在校生には、新学期にガイダンスをおこなっている。また、単位認定および卒業認定は認定会議において適正に判定している。	

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	①目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか	3.7	①②免許取得について関連法規の講義、国家試験対策で免許の内容・取得の意義を明確にしている。		学生便覧 時間割 講義履修要項
3-11-2 資格・免許取得に関する指導体制はあるか	①免許の取得について、指導体制を整備している ②不合格者及び卒後の指導体制を整備している	3.5	①学生、教員の国家試験対策委員を選出し年間計画を立案、また学生個人の試験対策の立案 全国・校内模擬試験の実施、特別講義、各領域別特別講義、早朝学習、自由参加クラス、少人数強化組クラス、実習施設開催の国家試験対策勉強会、土日食堂の開放、学生の面談及び指導、国家試験手続き、国家試験当日の支援、合格発表日の支援 ②不合格者に対しては、卒業後も全国模擬試験の受験や国家試験手続き、図書室の活用などを在学学生同様に支援している。		学生便覧、講義履修要項 国家試験対策学習計画表 全国模擬試験結果 強化クラス学習計画 領域別特別講義日程
中項目総括			特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）		
看護師免許取得に向け看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインを遵守し、科目はすべて必修科目としている。			昨年より医師会主催による受験者の激励会を開催している。		

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<p>①授業科目を担当するため教員に求める能力・資質等を明確にしている</p> <p>②授業科目を担当するため教員に求める必要な資格等を明示し確認している</p> <p>③教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合している</p> <p>④教員の採用等人材確保において、関連業界等と連携している</p> <p>⑤教員の採用計画・配置計画を定めている</p> <p>⑥専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示している</p> <p>⑦教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めている</p> <p>⑧教員一人当たりの授業時間数、学生数等を把握している</p>	3.6	<p>①②③厚生労働省の保健師助産師看護師学校養成所指定規則を遵守し、要件を満たした教員を採用している。</p> <p>④⑤⑥教員の採用計画は、長期的視点で定めている。</p> <p>⑦教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めている。</p> <p>⑧年度末に集計結果を公表し調整しているが、一人あたりの学生数は示していない。</p> <p>平均授業時間数 64 時間／年</p> <p>平均実習時間数 609時間／22人</p> <p>平均学生数 16 人</p>		<p>保健師助産師看護師学校養成所指定規則</p> <p>修業規則職員名簿</p> <p>実習施設担当表</p> <p>教員実習配置・時間数</p> <p>教員別担当時間数</p>

<p>3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか</p>	<p>①教員の専門性、教授力を把握・評価している ②教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用している ③関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいる ④研修後の報告を義務化している ⑤教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援している</p>	<p>3.3</p>	<p>①教員の専門性や教授力を把握し評価している。 ②③全国学会での研究発表や領域の研修会参加は予算確保されている。 ④研修報告書を共有ホルダーから閲覧でき、研修内容、課題等を共有できる。 ⑤学会には演題を持って参加するよう推奨している。また、自己啓発への支援では、学校の将来構想も視野に入れ教員のキャリア開発を支援している。</p>	<p>研修報告書の提出だけでなく、研修報告会を継続する。</p>	<p>研修希望調査 教員研修計画書 学会発表一覧 研修報告書</p>
<p>3-12-3 教員の組織体制を整備しているか</p>	<p>①分野毎に必要な教員組織体制を整備している ②教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めている ③授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組みがある ④専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築している</p>	<p>3.3</p>	<p>①②③授業に関しては専門領域別の組織体制をとっている。 ・学生指導は学年チューター制とし、複数の教員で担当している。 ・年度末に各領域の新年度教育計画（講義・実習）について検討会を持っている。 ④非常勤教員と専任教員との連携・協力は取れている。</p>	<p>新年度に向けた領域間の教育計画検討会は意義があり、テキストの変更、教育技法など参考となる。前期・後期で計画する。</p>	<p>学校組織図 教務業務分掌 実習施設担当表 教員実習配置・時間数 教員別担当時間数 教員各役割一覧</p>

<p>中項目総括</p>	<p>特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）</p>
<p>看護学校運営の要である専任教員、非常勤教員の資格・要件については厚生労働省の保健師助産師看護師等学校養成所指定規則を遵守している。教員の採用計画は長期的視点で定めている。</p>	<p>教員の資質向上のための支援は重点課題である。教員養成講習会、教務主任養成講習会の他、専任・非常勤問わず教員一人当たりの研修費（12万円）を保障している。また、大学院で修学する教員には、平成30年4月の入学者から入学金を給付することになっている。</p>

基準 4 学修成果

大項目総括	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>看護師国家試験合格100%を目標とし、国家試験合格に向けた対策を各学年で実施している。国家試験対策は学生の主体性に任せているが、教員の支援が必要な学生については、対策委員が個人、少人数に関わっている。国家試験合格実績・合格率共に全国水準を上回っている。国家試験対策委員を中心に県外の研修会での情報を得ながら国家試験対策の見直しを行っている。</p> <p>今年度から始めた早朝少人数クラス、夕方講座は好評であった。また、医師会主催の激励会は、学生のモチベーションアップにつながった。</p> <p>設置主体の医師会会員施設への就職率が減少傾向にあったため、平成30年度は会員施設への就職率アップを目標とし、県外就職が26%から16%と減少している。</p>	<p>進学希望の学生と進学した卒業生との情報交換会を設けるよう計画する。</p> <p>県外に就職している卒業生については、教職員の県外研修の際、卒業生の就職先を訪問するよう提案する。</p>	<p>設置主体の医師会会員施設への就職率のアップを期待するが、毎年、県内、県外への就職の割合が変化している。</p> <p>本校は8期生が卒業したばかりである。リーダーの役割、実習指導者、プリセプター等の役割を担っている卒業生の情報はあるが、主任への昇任、認定看護師等の資格取得等の情報は得ていない。近い将来、卒業生がキャリアアップについての講演等を担う人材が誕生することを期待している。</p>

4-13 免許の取得率・就職率・進学率

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率・進学率の向上が図られているか	<p>①就職率・進学率に関する目標設定はあるか</p> <p>②就職状況を把握しているか</p> <p>③就職に関し関連業界等と連携している</p> <p>④就職率・進学率等のデータについて適切に管理している</p> <p>⑤学生の進学活動を把握している</p> <p>⑥進学希望者は、保健師、助産師学校、大学等の入試情報が入手できる環境にある</p> <p>⑦県内の大学に進学した卒業生から情報を得る機会を設けている</p>	3.5	<p>①②就職率100%を目標としており、4月に2・3年生対象に就職説明会を実施している。医師会会員施設以外にも広報している。学生は自主的に業者主催の就職説明会へも参加している。</p> <p>③関連企業から求人のための学校訪問に対応し、募集要項等情報は掲示している。</p> <p>④就職状況は把握しており、担当者を決め適切に管理している。県外就職を希望する学生は、夏季休暇等を利用して、インターンシップを活用し就職先選定を行っている。</p> <p>⑤進学希望者については、9月に就職・進学希望調査を行い、さらに2月に就職・進学調査を行っている。</p> <p>⑥就職・進学に関する情報室があり、最新な求人情報等を閲覧している。また、就職・進学相談窓口を設けて、支援している。</p>	<p>設置主体の医師会会員施設への就職率のアップを期待するが、毎年、県内、県外への就職の割合が変化している。</p> <p>平成30年度は16%(78名中)の学生が県外就職となっている。</p>	<p>卒業生就職・進学一覧</p> <p>県内就職説明会資料</p> <p>看護師募集資料</p>

		<p>⑦進学した学生の来校時に情報提供の機会を作っている。継続して欲しいと在校生から希望がある。平成 30 年度の進学率は、助産師、保健師の免許取得ため 2 名が進学した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による学校評価アンケートでは、就職・進学状況について、施設と人数を提示してほしいという意見があった。 ・職場選びのためのガイダンス、面接の受け方、小論文の書き方等、学生からの要望が多く見られた。 ・これらの要望へ取り組んでいく。 	
--	--	--	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が就職先を決定する要因についてアンケート調査を行った結果を就職説明会に提示し、本校の学生の傾向を説明した。</p> <p>設置主体の医師会会員施設への就職率が減少傾向にあったため、平成 30 年度は会員施設への就職率アップを目標とし、県外就職が 26%と増加している。</p>	

4-14 免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 免許取得率の向上が図られているか	①免許取得率に関する目標設定はある ②特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組がされている ③合格実績、合格率、全国水準との比較など行っている ④指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っている	3.1	①国家試験合格100%を目標とする。 ②従来の対策に加え、早朝少人数クラス、夕方講座を設けた。 ③合格実績・合格率共に全国水準を上回っている。 ④国家試験対策研修へ教員派遣し、毎年評価修正を行っている。	早朝少人数クラス、夕方講座は国家試験過去問題を中心に、必修、一般、状況設定問題と幅広く行ったが、成績不振な学生への対応を進級したと同時に支援することが必要である。	卒業生就職・進学一覧 県内就職説明会資料 学生アンケート 看護師募集資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
看護師国家試験合格100%を目標とし、国家試験合格に向けた対策を各学年で実施している。国家試験対策は学生の主体性に任せているが、教員の支援が必要な学生については、対策委員が個人、少人数に関わっている。国家試験合格実績・合格率共に全国水準を上回る。国家試験対策委員を中心に県外の研修会での情報を得ながら国家試験対策の見直しを行っている。 今年度から始めた早朝少人数クラス、夕方講座、土日講座は好評であった。	

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	<p>①卒業生の就職先を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握している</p> <p>②卒業生のキャリアアップ等を把握している</p>	2.8	<p>①年度末に実習調整者と学校長が実習病院を訪問して卒業生の動向を把握している。</p> <p>平成29年度の卒業生については、退職した卒業生の報告はない。</p> <p>②リーダーの役割、実習指導者、プリセプター等の役割を担っている卒業生の情報は得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職先から送られる写真入りの卒業生の近況を掲示している。 ・大学進学、海外留学に必要な英文による証明書発行を行い、留学予定先からの問い合わせにも対応している。 	教職員の県外研修の際、卒業生の就職先を訪問できるよう計画する。	卒業生就職・進学一覧 就職先の動向

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度末に学校長・実習調整者が実習病院を訪問して卒業生の動向を把握している。県外に就職している卒業生については、卒業生が学校を訪ねてくる時やホームカミングデー時のみ卒業生の把握ができないため、教職員の県外研修の際、卒業生の就職先を訪問するよう計画する。	

基準 5 学生支援

大項目総括	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職・進路等についての支援体制は整っている。3 学年において就職決定までに学年担当教員が状況を把握、内定が遅れている学生には面接を行い。結果は教職員間で共有し継続した支援が行われている。今年度は就職内定率 100%であり、進学は 2 名であった。中途退学者への対応については学年担当教員・教務部長・学校長と段階を踏んだ面談が行われている。退学に至らないよう生活面や学習面での個別的な支援を行い、学生の意思を尊重した支援が行われている。しかし、やむを得ず退学をせざるを得ない状況もあり、今年度は 1 名の学生（3 学年）が退学した。学生相談について体制は整えられている。就職や進学、健康面、経済的なことなど学年担当教員が窓口となり継続した関わりを持っており、今後も必要な時に適切な相談が実施できるよう継続して関わっていく。健康診断の実施、予防接種など学校生活における健康管理を行うための体制は整えられている。有所見者や要治療の学生に対しては教員間で連携を取りながら継続した支援を行っている。課外活動への補助金交付に向けて予算化の検討を行い、サークル活動規程を作成し周知する。</p> <p>入学時・後援会総会を活用し保護者との交流を図っている。成績状況や出欠席状況、学校生活・家庭での過ごし方など学生に関する情報を共有でき、学校への要望についても確認することができる。保護者との面談を実施し学生支援につなげている。再就職やキャリアアップ等についての相談は来校時に専任教員や学校長にて個別的に実施されている。</p> <p>同窓会は会則に則り役員を選定が行われる。主な活動としては卒業生への記念品の贈呈であるが、これまで総会も 1 回開かれた。</p>	<p>卒業生への支援体制については、里帰りイベント（ホームカミングデー）を実施し、お互いの近況報告、教職員との和やかな交流が図られた。</p> <p>8 期生のホームカミングデーを 8 月に実施した。近況報告等でお互いの交流を図った。45 名の参加があった。</p>	<p>既習得認定の申請も入学前に案内され規定に沿って認定されており、平成 30 年度は延べ 17 科目（学生数 7 名）が認定された。</p>

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制は整備されているか	①就職など進路支援のための組織体制を整備している ②学年担当教員と就職担当事務など学内における連携体制を整備している ③学生の就職活動の状況を学内で共有している ④関連する病院と就職に関する連携体制を構築している ⑤就職説明会等を開催している ⑥履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導をしている ⑦就職に関する個別の相談に適切に応じている	3.1	①②③学年担当は就職決定までの間に数回の面談を行い、結果を提示しており、学生から得られた就職活動の状況について教職員間で共有している。実習中の就職面接試験の際、公欠扱いとし学生へ不利にならないよう配慮している。 ④⑤2学年及び3学年を対象に4月に就職説明会を開催、終了後は参加企業及び学生へのアンケート実施を行い次年度に向けての評価を行っている。就職に関する情報を資料室に置き、いつでも閲覧できるようにしている。 ⑥⑦履歴書・願書の記載方法・面接のポイント・論文指導などを個別指導している。外来講師による、論文の書き方の講義を開催した。	卒業生の就職状況について、各期学生の就職先を一覧表にまとめ、教職員や学生全員が閲覧できるようにした。	就職説明会実施要項 進学に関する資料綴り 就職内定、決定一覧表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職・進路等についての支援体制は整っている。最終学年において就職決定までに学年担当教員により数回の面接が行われる。面接結果は教職員間で共有され継続した支援が行われている。事務部との連携も密にし、学生への情報提供を行う。	資料室が設置され、就職情報や進学情報、実習や国家試験等のさまざまな機関誌や募集要項などを閲覧することができる。

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<p>①中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか</p> <p>②指導経過記録を適切に保存しているか</p> <p>③中途退学の低減に向けた連携体制をとっているか</p> <p>④退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか</p>	3.1	<p>①クラス担当による面談が行われ退学に至る経緯から要因の把握がされている。平成 30 年度退学者数は1名で退学率 0.4%である。</p> <p>②③クラス担当教員や実習担当教員による面談にて必要な時期に相談・支援が実施され、面接記録が個別ファイルに保管される。</p> <p>④いつでもカウンセラーの活用ができる状況にあり、積極的に推奨している。(掲示板に案内を常時掲示している)カウンセラーとの連携もとれている。</p>	対象学生へ対して早期から、退学に至らないような対応策が必要	<p>学生面接記録</p> <p>在籍学生数一覧表</p> <p>生活調査票</p> <p>成績表</p> <p>出欠席簿</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
中途退学者への対応については担当教員・教務部長・学校長と段階を踏んだ面談が行われている。退学に至らないよう生活面や学習面での個別的な支援を行っており、学生の意思を尊重した支援が行われている。	退学者は、学業不良、メンタルの問題、人間関係の希薄等で休学を経験した学生にみられる傾向がある。そのような学生に対しては早期から、退学に至らないような対応策が必要である。

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	①専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備している ②相談室の設置など相談に関する環境整備を行っている ③学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っている ④相談記録を適切に保存している ⑤関連医療機関等との連携をとっている	3.3	①専任スクールカウンセラーを配置し、いつでも利用できるよう連絡先等を掲示している。 ②③相談室は各階に設けている。 ④相談記録簿は個別にファイリング保管し教員間で情報共有できるようにしている。 ⑤現在は関連する医療機関とは連相談等を行っており、必要時は受診を勧めている。	・専任のスクールカウンセラーへの相談件数はゼロであった。連絡方法や相談場所等の検討をしていく。 ・スクールカウンセラー（臨床心理士）によるメンタルヘルスについて、ストレスにどう向き合うか、等の講義を計画している。	カウンセリングの案内 学生相談記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談について体制は整えられている。就職や進学、健康面、経済的なことなど学年担当教員が窓口となり継続した関わりを持っており、今後も必要な時に適切な相談が実施できるよう継続して関わっていく。	中部地区医師会奨学金制度が設けられ、奨学金の増額も行われた。今後は、国が実施する高等教育無償化制度の対象校として認定を目指したい。

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生に対する経済的支援体制は整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> ①学校独自の奨学金制度を整備しているか ②学費の減免、分割納付制度を整備しているか ③大規模災害発生時及び家計急変時に対応する支援制度を整備しているか ④全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に情報提供しているか ⑤公的支援制度の利用について実績を把握しているか ⑥全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ①独自の奨学金制度を有しており、毎年4名の学生が活用できている。 ②必要時保護者との面談、分割納付が行えるようにしている。 ③特定の支援制度は整備されていない。 ④教員による面談、事務部担当者からの支援制度に関する情報提供を行っている。 ⑤公的支援制度利用者数は158名(61%)である。 	<p>沖縄県修学資金制度が継続されるよう県への要請活動が続ける。</p> <p>国が実施する高等教育無償化制度の対象校として認定を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 奨学資金貸与状況一覧 生活調査票 面談記録 教育訓練給付金受給状況
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ①学校保健計画を定めている ②学校医を選任している ③保健室を整備し専門職員を配置している ④定期健康診断を実施して記録を保存している ⑤有所見者の再健診について適切に対応している ⑥健康に関する啓発及び教育を行っている ⑦心身の健康相談に対応する専門職員を配置している ⑧近隣の医療機関との連携はある 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ①③学校保健計画による定期健康診断を実施し記録を保管している。予防接種もガイドラインに従い勧めている。 ②学校医は選任されていない。学校担当理事への相談、検診を担当する中部地区医師会健診センターが担当している。 ③保健室を整備し担当係に専任教員を当てている。 ⑤有所見者については保健係担当教員とクラス担当教員にて連携し経過を追っている。 ⑥啓発事業はないが機会をみて健康管理に関する指導を行っている。 	<p>近隣の医療機関との連携を今後は検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果一覧 相談記録 実習前アンケート 保健室使用記録簿

			⑦スクールカウンセラーを配置している。 ⑧必要時に有所見者へは医療機関を勧めている。		
5-19-3 学生の生活環境への支援は行われているか	①遠隔地から就学する学生の支援体制がある	2.9	離島などの遠隔地からの就学者に対して学校近隣の不動産関連の情報提供を行っている。	学校近隣の生活マップなどを活用し情報提供を行う。	
5-19-4 課外活動(サークル等)に対する支援体制を整備しているか	①クラブ活動等の団体の活動状況を把握している ②補助金の交付等具体的な支援を行っている ③大会成績など実績を把握しているか	3.3	活動状況は把握しているが、補助金等の交付などは行われていない。	後援会規定に沿って学生の福利厚生事業として支援できるよう検討する。 サークル活動規程を作成し周知する。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
健康診断の実施、予防接種など学校生活における健康管理のための体制は整えられている。有所見者や要治療の学生に対しては教員間で連携を取りながら継続した支援を行っている。課外活動への補助金交付に向けて予算科目の検討をおこない、さらにサークル活動規程を作成し周知する。	

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<p>①保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っている</p> <p>②学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携している</p> <p>③緊急時の連絡体制を確保している</p>	2.9	<p>①入学時の保護者会及び後援会総会時に保護者との交流会を設けている。学校生活に関する情報提供や保護者からの学校生活に関する質疑にも応えることができている。</p> <p>②必要時には保護者との面談を実施している。</p> <p>③緊急時連絡体制は確保されている。</p>	<p>・入学時の保護者会は入学生ほぼ全員の保護者が参加しておりオリエンテーションが実施できている。</p> <p>・後援会総会への参加者増を図るため、学生をとおして参加を呼び掛ける。</p>	<p>後援会総会実施記録 生活調査票 (緊急連絡先記載) 緊急連絡網</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学時・後援会総会を活用し保護者との交流を図っている。成績状況や出欠席状況、学校生活・家庭での過ごし方など学生に関する情報を共有でき、学校への要望についても確認することができる。保護者との面談を実施し学生支援につなげている。</p>	<p>保護者との連携では、入学式や後援会総会後に学生の学校生活等、情報共有できる貴重な機会となっている。</p>

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<p>①同窓会を組織し、活動状況を把握している</p> <p>②再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応している</p> <p>③卒業後の研究活動に対する支援を行っている</p>	2.7	<p>①同窓会会則により組織が置かれ卒業生への記念品の贈呈が行われている。平成27年度第一回同窓会総会開催した。今年度は行われていない。8期生のホームカミングデーを8月に実施した。近況報告等でお互いの交流を図った。</p> <p>②卒後の相談については来校時に個別に対応している。米国の病院への就職希望者の相談があり、選考審査に必要な書類の準備・提供等の支援を行った。</p> <p>③図書室の利用、文献検索の指導を行っている。</p>	<p>同窓会会則により、第2回同窓会を平成32年に開催できるよう準備を行う。母校に帰る機会、イベントを計画する。今後も引き続き、ホームカミングデーを実施する。</p>	<p>同窓会会則</p> <p>ホームカミングデー印刷物、写真、ぐし看だより</p>
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる	<p>①関連業界・職能団体等再教育プログラムについて協同開発を行っているか</p> <p>②再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか</p> <p>③卒後のキャリアアップのための講座を開講しているか</p> <p>④卒後の研究活動に対する支援を行っているか</p>	2.5	<p>産学連携についての具体的なプログラムの開発等が行われていないが、病学連携の協定について進行中である。</p>	<p>産学連携に協力できる企業や職能団体を決め、卒業生の再教育プログラム開発を目指す。</p>	<p>病院・学校連携協定書(案)</p>

5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	①社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定している	3.1	①入学前に大学・専門学校にて既習した単位については学則規定に沿って、基礎科目の1/2に限り認定している。平成30年度認定科目数は延17科目である。	社会人経験入学者のニーズ調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・既修得単位認定会議資料
---------------------------------	--	-----	---	-------------------	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>同窓会は会則に則り役員を選定が行われる。主な活動としては卒業生への記念品の贈呈であるが、これまで総会は1回開かれた。第2回同窓会総会は平成32年に開催できるように準備する。</p> <p>再就職やキャリアアップ等についての相談は来校時に専任教員や学校長にて個別に実施されている。既習得認定の申請も入学前に案内され規定に沿って認定されており、平成30年度の認定科目数は延17科目（学生数7名）である。</p>	<p>卒業生への支援体制については、里帰りイベント（ホームカミングデー）を実施し、お互いの近況報告、教職員との和やかな交流が図られた。平成32年には同窓会総会を開催し、会員間の親睦を図りたい。</p>

基準 6 教育環境

大項目総括	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学内の教育環境として、学校の施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し、充実している。図書では看護の専門書や関連書籍、雑誌や新聞、DVD 等も揃え、卒業生も利用している。</p> <p>本館や講堂入口には車椅子用のスロープが設置され、3階建ての校舎はエレベーターが設置されている。手洗い設備などの衛生管理は徹底している。消防設備に関しては年に一回の点検を業者にて実施。日頃は不具合時に補修依頼し、対応している。</p> <p>実習環境としては、臨地実習の意義や教育課程上の位置づけを実習要項に明示し、内容についても毎年見直しを行い、運用している。実習施設と実習調整会議を行い、指導者との連携をとっている。</p> <p>学校防災計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルは整備している。また施設・建物・設備の耐震化に対応している。年に一回うるま市消防署の協力のもと、防災訓練を実施し、助言を受けている。消防設備等の整備及び保守点検も法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応している。備品の転倒防止など安全管理は徹底している。</p> <p>薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行い適切に対応している。危険物は鍵付きの保管庫へ保管している。教員と学生は総合保険制度へ加入している。</p>	<p>卒業生への施設・設備の提供として、図書以外にもスキルラボ室の活用などを検討する。</p> <p>臨地実習等の安全管理体制に関してはこれからの課題である。</p> <p>実習中の地震や災害時などの緊急連絡方法などについては検討を重ねているが、現状としては、教員が専用の携帯電話を携行しているので、それに対応していく。</p>	<p>学内の教育環境として、学校の施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し、充実している。図書では看護の専門書や関連書籍、雑誌や新聞、DVD 等も揃え、卒業生も利用している。</p> <p>校内には、280 台収容の広い駐車スペースがあり、学生は無料で使用できる。また本館の一階には約 200 名程度収容可能なスペースの食堂があり、外注の業者が学食を用意。各階にも憩いの広場がある。</p> <p>校内に4台の防犯カメラを設置、時間外は管理会社へ委託、学生は19時までの完全下校を周知徹底している。</p>

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
<p>6-22-1 施設・設備・教育用具は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか</p>	<p>①施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実している ②図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備している ③図書室の図書は専門分野に応じ充実している ④学生の休憩・食事のためのスペースを確保している ⑤施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいる ⑥手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底している ⑦卒業生に施設・設備を提供している ⑧施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応している</p>	<p>3.6</p>	<p>① ②施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し、実習室やスキルラボ室を設置、280 台収容の広い駐車スペースがあり、無料で使用できる等充実している。 ② 2月中旬の国試に向けて1月から週末も3学年の学生の為に学校を開放し、学習の場として提供した。 ③⑦図書では看護の専門書や関連書籍、雑誌や新聞、DVD 等も揃えている。卒業生も利用している。 ③約 200 名程度収容可能な食堂があり、外注の業者が学食を用意している。各階にも憩いの広場がある。 ⑤本館や講堂入口には車椅子用のスロープが設置され、在宅実習室内はバリアフリーになっている。 ⑥各階のトイレや各演習室、本館入口（外）には、手洗い場を設置。教務室前には通年、玄関入口に手指消毒液を設置、インフルエンザの流行時には各教室やセミナー室へも設置している。 ⑧毎年、消防設備の点検を業者にて実施し不具合時に補修依頼し対応している。</p>	<p>⑥ 卒業生への施設・設備の提供として、スキルラボ室の活用なども検討する。</p>	<p>建物の施設・設備、機器類に関するメンテナンス資料 設備点検に関する実施書類 備品台帳 学内の各フロアの見取り図 図書書籍リスト 学生便覧</p>

	<p>⑨施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行している</p>	<p>⑨施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、執行している。 今年度は、台風により時計、広告版、フェンスなどの倒壊がみられたが、3ヶ月以内には修繕ができている。</p>		
--	--	--	--	--

<p>中項目総括</p>	<p>特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）</p>
<p>施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合している。また、図書の内容も充実し、卒業生も活用している。衛生管理は徹底している。施設、設備の点検や補修も適切に行われている。</p>	<p>校内には、280台収容の広い駐車スペースがあり、学生は無料で使用できる。また本館の一階には約200名程度収容可能なスペースの食堂があり、外注の業者が学食を用意する予定にある。各階にも憩いの広場がある。</p>

6-23 学外実習

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 臨地実習体制を整備しているか	<p>①臨地実習について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしている</p> <p>②臨地実習について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用している</p> <p>③臨地実習について、成績評価基準を明確にしている</p> <p>④臨地実習について実習施設の指導者との連絡・協議の機会を確保している</p> <p>⑤臨地実習の教育効果について確認している</p>	3.2	<p>①臨地実習の意義や教育課程上の位置づけは明確である</p> <p>②実習要項は毎年見直しを行い、運用している。</p> <p>③成績評価の基準も要項にて明確である。</p> <p>④ 年度初めには、全体の実習調整会議を行い、相談や調整を行っている。効果的な実習が行えるように、各実習においても担当教員と指導者間での相談や調整を常に行っている。</p> <p>・実習終了後の年度末に、実習調整者と実習施設の教育担当者で意見交換を行っている。</p> <p>⑤指導者、学生の成績、アンケートなどからも教育効果を確認している。</p>	<p>・実習施設の駐車場の確保が困難、学校単位で何台までと制限がある。</p> <p>・在宅看護論実習、老年看護学実習等、実習場への同乗についての同意書の提出を検討する。</p>	<p>学生便覧</p> <p>講義履修要項</p> <p>実習要項</p> <p>実習アンケート</p> <p>実習施設との意見交換</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>臨地実習の意義や教育課程上の位置づけ、また成績評価も明確である。要項は毎年見直し、運営している。実習施設との調整や連携を図り、教育効果も確認できている。</p>	

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<p>①学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備している</p> <p>②施設・建物・設備の耐震化に対応している</p> <p>③消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、必要時適切に改善している。</p> <p>④防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか</p> <p>⑤備品の転倒防止など安全管理を徹底している</p> <p>⑥担当教員の明確化など臨地実習等の安全管理体制を整備している</p> <p>⑦教職員・学生に防災研修・教育を行っている</p>	3.0	<p>①学校防災計画、消防計画や災害発生時におけるマニュアルは整備している。</p> <p>②施設・建物・設備の耐震化に対応している。</p> <p>③消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善点には適切に対応している。校内に4台の防犯カメラを設置、時間外は管理会社へ委託、学生は19時までの完全下校を周知徹底している。</p> <p>④防災（消防）訓練を毎年4月に実施、記録を保存している。守衛による安全点検を行っている。</p> <p>⑤備品の転倒防止など安全管理は徹底している。</p> <p>⑥薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行い適切に対応している。危険物は鍵付きの保管庫へ保管している。</p> <p>⑦担当教員は明確であるが臨地実習等の安全管理体制を順次整備している。教員と学生は総合保険制度へ加入している。</p> <p>⑧教職員・学生に防災研修・教育を年に一回実施している。</p> <p>⑨台風時の対策は教職員、学生で業務分担し、毎回、迅速かつ適切に行われている。</p> <p>⑩学外実習時は、一部、学生に常時連絡が取れるよう携帯を所持させている場合もある。</p>	⑦災害時の学内や実習時の学生の安否確認などの対応について、検討する。	<p>学校安全計画</p> <p>消防計画防犯・防災体制チェック、結果</p> <p>危険物などの安全管理状況</p> <p>消防など安全管理設備一覧</p> <p>保守点検委託契約書・点検結果・改善報告</p> <p>守衛の管理日誌</p>

<p>6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか</p>	<p>①学校安全計画を策定している ②学生の生命と学校財産を加害者～守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか ③授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか ④薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応している ⑤担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか</p>	<p>3.2</p>	<p>①学校安全計画を策定している。 ②校内に4台の防犯カメラを設置、時間外は管理会社へ委託、学生は19時までの完全下校を周知徹底している。朝、夕で守衛を置いて見守りを行っている。 ③マニュアルは作成 ④薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行い適切に対応している。危険物は鍵付きの保管庫へ保管している。 ⑤担当教員の配置は教職員全員で周知している。また、専用の携帯を常に携帯し常時連絡が取れるような体制がとれている。</p>		<p>学校安全計画 消防計画防犯・防災体制 チェック、結果 危険物などの安全管理状況 消防など安全管理設備一覧 保守点検委託契約書・点検結果・改善報告 守衛の管理日誌 実習の教員配置表</p>
---	--	------------	--	--	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>防災に対する組織体制は、整備され適切に運用されている。学校防災計画に基づいて、災害発生時における行動マニュアルは整備されているが、実習中の災害時の対応など、今後の課題である。</p>	<p>校内に4台の防犯カメラを設置、時間外は管理会社へ委託、学生は19時までの完全下校を周知徹底している。</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の願書の受付は入学時期、試験日に照らし日程を決定し、入学試験規定により、学生募集活動は適切に行われている。また、県内看護系大学3校、専門学校4校の入試計画を把握し本校の入学試験を計画している。</p> <p>高校主催の職業教育で「看護のしごと」を講義している。</p> <p>高等学校の進路担当教員や進学塾講師等を招いて、学校説明会を実施し情報交換を実施している。</p>	<p>全教員が職業教育「看護のしごと」ができるよう交代制で講義を担当する。</p>	<p>学校概要、受験対策などが載っている小冊子「看護のしごと」を参考に丁寧に対応している。パンフレットを高校、進学塾へ配布、実習病院、地域のコンビニへ広告を掲載している。</p> <p>オープンキャンパスは年1回開催、プチ授業体験を開催している。</p>

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<p>①高等学校における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか</p> <p>②高等学校等の教職員に対する入学説明会を行っているか</p> <p>③教員又は保護者向けの学校案内等を作成しているか</p>	3.2	高等学校の進路教員を招き、説明会を開催している。	<p>入試の合格ラインや合格者数の提示など、もっと具体的な情報を提供。</p> <p>個別対応なども行えるよう、情報交換のラインを作る。</p>	学校案内 冊子「看護のしごと」
7-25-2 学生募集活動は適切かつ効率的に行っているか	<p>①入学時期、受験日に照らし、適切な時期に願書の受付を開始している</p> <p>②志願者等からの入学相談に適切に対応している</p> <p>③学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介している</p> <p>④広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備している</p> <p>⑤オープンキャンパス、体験入学などの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか</p> <p>⑥志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか</p>	3.8	<p>①願書の受付は入学時期、試験日に照らし日程を決定している。県内看護系大学3校、専門学校4校の入試計画を把握し本校の入学試験を計画している。</p> <p>②ガイダンスや学校説明会、受験者の学校見学の際、入学についての相談に応じている。</p> <p>③学校概要、受験対策などが載っている小冊子「看護のしごと」を参考に丁寧に対応している。</p> <p>④学校説明会、ガイダンスにおいて公開する情報のチェックを広報委員、事務で行っている。</p> <p>⑤パンフレットを高校、進学塾へ配布、実習病院、地域のコン</p>	<p>入学試験日の期日は、特に推薦入学において大学と同日にならないよう調整する。</p>	募集要項 学校案内 4校合同学校説明会 高校・進学塾対象学校説明会 冊子「看護のしごと」

			<p>ビニへ広告を掲載している。</p> <p>オープンキャンパスは年1回開催、プチ授業体験を開催している。看護体験や教科書紹介の外に模擬授業や在学生から直接学生生活を聞けるようなコーナーを設置している。</p> <p>オープンキャンパスでは、高校生、社会人対象のブースを設置し進学相談を行っている。</p> <p>⑥高校主催の職業教育で「看護のしごと」を講義している。</p> <p>4月に高等学校の進路担当教員や進学塾講師等を招いて、学校説明会を実施し情報交換を実施している。</p> <p>教員や入学希望者又は保護者に向けて「学校案内」を作成している。</p>	<p>全教員が職業教育「看護のしごと」ができるよう交代制で講義を担当する。</p>	
--	--	--	---	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>願書の受付は入学時期、試験日に照らし日程を決定している。県内看護系大学3校、専門学校4校の入試計画を把握し本校の入学試験を計画している。</p> <p>高校主催の職業教育で「看護のしごと」を講義している。</p> <p>高等学校の進路担当教員や進学塾講師等を招いて、学校説明会を実施し情報交換を実施している。</p>	<p>学校概要、受験対策などが載っている小冊子「看護のしごと」を参考に丁寧に対応している。</p> <p>パンフレットを高校、進学塾へ配布、実習病院、地域のコンビニへ広告を掲載している。</p> <p>オープンキャンパスは年1回開催、プチ授業体験を開催している。</p>

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	①入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めている ②入学選考等は、規程等に基づき適切に運用している ③入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備している ④教職員全員が合否判定会議に参加している	3.1	①②入学選考基準や方法は、規程で明確に定めており、規程に基づき適切に行われている。 ③合否判定は判定会議で決定し入学選考の公平性を確保している。 ④判定会議は多く教職員が参加できている。	試験ごとの獲得数がある程度決めておく。現状を踏まえ、推薦合格者数の検討。 成績の開示を行う。	学生便覧 入学試験要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	①受験者数・受験倍率・合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理している ②入学者の傾向を把握し、授業方法の検討を行っている ③応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか	3.5	①受験者数・受験倍率・合格率・辞退率のデータは適切に管理している。 ②入学試験作問者と検討会を持ち、問題と正解率の分布などの分析から入学生の傾向を抽出している。その結果をもとに授業方法の検討を行っている。	教職員が全て把握できるようにする。	入試状況表（年度毎） ※学外非公表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考基準や方法は、規程で明確に定めており、規程に基づき適切に行われている。合否判定は判定会議で決定し入学選考の公平性を確保している。全教職員が判定会議に参加している。 受験者数・受験倍率・合格率・辞退率のデータは適切に管理している。	入学試験作問者と検討会を持ち、問題と正解率の分布などの分析から入学生の傾向を抽出している。その結果をもとに授業方法の改善を行っている。

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 学納金は妥当であるか	①学納金の水準を把握し、学納金の算定内容を決定しているか ②学納金等徴収する金額はすべて明示している	3.5	県内の看護専門学校4校の学納金を把握し、学納金の基準にしている。 学納金の内容は明確で、学納金等徴収する金額はすべて募集要項に掲載している。	4校との比較だけではなく、本校の現状も踏まえ検討が必要。	学校案内 募集要項 ※ホームページでも参照可
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	①文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っている	3.8	①平成18年文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、入学辞退者には授業料の返還を行っている。 辞退者は辞退届を提出している。	入学予定者が辞退した場合の学納金返還について、明示する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金の内容は明確で、学納金等徴収する金額はすべて募集要項に掲載している。	

基準 8 財務

大項目総括	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務状況について学生定員の充足率は103.7%であり、設置主体の医師会の支援、県の補助金等により学校の財務基盤は安定している。学校運営は本校の教育理念、教育目標を達成するため計画的な予算編成を行い、執行に当たっては経費削減を常に意識し、適正なチェック体制により執行している。また公認会計士による監査と医師会評議委員会の監事による監査を受けいずれも適正であると認められている。</p>	<p>休学者、退学者は収入減の要因となっているため更に学生支援を強化し休学、退学者の低減を図る必要がある。</p>	<p>設置主体である中部地区医師会、沖縄県及び沖縄県医師会からの財政支援は、学校運営を円滑にしている。</p>

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
<p>8-28-1 学校の中長期的な財務基盤は安定しているか</p>	<p>①応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握している ②収入と支出はバランスがとれている ③貸借対照表の翌年度繰越消費収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ④消費収支計算書の当年度消費収入超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ⑤設備投資が過大になっていないか ⑥負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか</p>	<p>3</p>	<p>①応募者・入学者数の推移は初年度から推移を把握し学生募集の資料としている。平成30年度は退学者1名発生した。 ②学生定員は103.7%であり、開学当初の借入金返済があるが、平成30年度に学校債を完済し更に収支は改善している。また中部地区医師会、沖縄県、沖縄県医師会からの支援により収支は安定している。 ③設備投資や適切に行われている。 ④借入金の返済は返済計画に基づき適正に返還されている。 ⑤財産目録、貸借対照表等財務諸表により適切に行っている。 ⑥年度ごとの予算により適切にコスト管理を行っている。</p>	<p>休学者、退学者は収入減の要因となっているため更に学生支援を強化し休学、退学者の低減を図る必要がある。</p>	<p>ぐしかわ看護専門学校受験者数の推移 平成30年度事業報告書 返済予定明細表 平成30年度収支予算書</p>
<p>8-28-2 学校にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか</p>	<p>①最近3年間の収支状況による財務分析を行っているか ②最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか</p>	<p>3.1</p>	<p>①②前年度の数値と比較しながら分析を行っている。過去3年間は行っていない。</p>		

	<p>③キャッシュフローの状況を示すデータはあるか</p> <p>④教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか</p> <p>⑤コスト管理を適切に行っている</p> <p>⑦収支の状況について自己評価しているか</p> <p>⑧改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか</p>		<p>④教育研究費は適切な数值である。人件費は、平成30年度に教員の退職金により比率は高くなった。</p> <p>⑤年度ごとの予算により適切にコスト管理を行っている。</p> <p>⑥毎年予算案作成、決算の際、財務改善項目について検討する機会を設け、計画策定している。</p>		
--	--	--	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>応募者・入学者数の推移は初年度から表にまとめ推移を把握し学生募集の資料としている。開学当初の借入金返済があるが、毎年収支は改善している。また中部地区医師会、沖縄県、沖縄県医師会からの支援により収支は安定している。財産目録、貸借対照表等財務諸表により適切に行っている</p>	<p>休学、退学者の低減を図るためには学生支援を強化する必要がある。</p>

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標		イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	①教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定している ②予算編成時教育目標、中期計画、事業計画等との整合性を図っている ③予算の編成過程及び決定過程は明確になっている	3.3	①教育目標に基づき毎年計画的に予算編成を行っている。 ②教育目標、事業計画に基づき適正に予算編成を行っている。 ③予算の編成過程は明確になっている。 ④⑤⑥起案処理より事務部長、教務部長、学校長がチェックし必要がある場合は医師会理事会のチェックを受けている。	開学から10年経過し老朽化した設備、資機材の更新のための計画的な予算編成が必要となる。	平成29年度事業報告書 平成30年度事業計画書 平成30年度収支予算書
8-29-2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	①予算の執行計画を策定している ②予算と決算に大きな乖離を生じていないか ③予算超過が見込まれる場合適切に補正措置を行っている ④予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っている	3.4	①計画的に予算の執行を行っている。 ②医師会理事会の承認を得て適切に補正措置を行っている。 ③④起案処理より事務部長、教務部長、学校長がチェックし必要がある場合は医師会理事会のチェックを受けている。		平成30年度収支予算書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中部地区医師会からの支援、沖縄県及び沖縄県医師会からの補助金等により経営は安定しているが、更に効率化を図り経費削減に努め引き続き安定した学校運営を行っていく。	

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 財務について会計監査が適正に行われているか	①適切に監査を実施している ②監査法人による外部監査を実施している ③監査時における改善意見について記録し、適切に対応している	3.6	公認会計士の監査をへて医師会評議委員会の監事による監査を受けている。		平成 30 年度事業報告書 平成 30 年度決算報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報について、会計予算書、貸借対照表、収支内訳表を整備し公開ホームページで公開している。	

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	①財務公開規程を整備し、適切に運用しているか ②公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか ③財務公開の実績を記録しているか ④公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	3.3	①財務公開規定はない。 ②財務帳票、事業報告書等を作成している。 ③財務公開の実績を記録している。 ④ホームページにて公開している。		平成 30 年度事業報告書 平成 30 年度決算報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報について、会計予算書、貸借対照表、監査報告書を整備しホームページで公開している。	

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき、学校を運営し諸届等を行っている。また、学校運営に必要な規則・規程等を整備し適切に運用している。</p> <p>教職員、学生に対し法令違反、学則違反に関する相談窓口は設置されている。また、投書箱を設置し匿名の学生に対しても意見箱の回答を掲示する等対応している。</p> <p>教職員、学生に対し、法令遵守に関する学習会や教育を行っている。</p> <p>個人情報保護規定を定め適切に運用している。</p> <p>自己評価については、学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取り組んでいる。評価結果に基づき、目標、具体策を検討し学校改善に取り組んでいく。関係者評価についても学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取り組んでいる。</p>	<p>自己評価については、学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取り組んでいる。評価結果に基づき、目標、具体策を検討し学校改善に取り組んでいく。関係者評価についても学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在医師会では個人情報を安全に管理する体制「個人情報保護マネジメントシステム PMS 取得のための作業が進められている。このため、個人情報管理について教職員全員が講義を受講した。 ・「働き方改革」に向け学習会を持つ必要がある。

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がされているか	<p>①関係法令の設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っている</p> <p>②学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用している</p> <p>③ハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用している</p> <p>④教職員、学生に対し、法令違反、学則違反に関する相談窓口を設置している</p> <p>⑤教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っている</p>	3.7	<p>①関係法令の設置基準に基づき、学校を運営し諸届等を行っている。</p> <p>②学校運営に必要な規則・規程等を整備し適切に運用している。</p> <p>③ハラスメント対応マニュアルを作成している。</p> <p>④教職員、学生に対し法令違反、学則違反に関する相談窓口は設置されている。また、投書箱を設置し匿名の学生に対しても意見箱の回答を掲示する等対応している。</p> <p>⑤教職員、学生に対し、法令遵守に関する学習会や教育を行っている。</p>	ハラスメント対応マニュアルを運用する事例はない	保健師助産師看護師養成所指定規則 学生便覧 学校指定許可証綴り

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき、学校を運営し諸届等を行っている。また、学校運営に必要な規則・規程等を整備し適切に運用している。</p> <p>教職員、学生に対し法令違反、学則違反に関する相談窓口は設置されている。また、投書箱を設置し匿名の学生に対しても意見箱の回答を掲示する等対応している。</p> <p>教職員、学生に対し、法令遵守に関する学習会や教育を行っている。</p>	<p>・「働き方改革」については労働基準局、医師会の社会労務士の指導を受け実施する方向で検討する。</p>

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<p>①個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか</p> <p>②大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用している</p> <p>③学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか</p> <p>④学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施している</p>	3.4	<p>①②個人情報保護規定を定め適切に運用している。また、学籍管理簿に関しても教員ごとにパスワードを設定している。学校のホームページは管理会社と提携し情報管理を講じている。</p> <p>③学生・教職員・非常勤講師に個人情報保護に関する承諾書を提出している。</p>	医師会の PMS 体制に準じる。	<p>学生便覧</p> <p>実習要項</p> <p>個人情報保護規定</p> <p>個人情報保護同意書</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護規定を定め適切に運用している。また、電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用している。	現在医師会では個人情報を安全に管理する体制「個人情報保護マネジメントシステム（Personal Information Protection Management Systems：PMS）」取得のための作業が進められている。このため、個人情報管理について教職員全員が講義を受講した。

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	評定	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	①実施に関し、学則及び規程等を整備し実施している ②実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全教職員で取組んでいる ③評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいる	3.5	①②学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。 ③評価結果に基づき、目標、具体策をたて学校改善に取り組んでいく。	・基準毎に担当者による評価、教職員個人による評価など、職員全体で取り組んでいく。	学生便覧 学校評価報告書 学校関係者評価報告書 議事録 ホームページ
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	①評価結果を報告書に取りまとめている ②評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表している	3.5	①②平成29年度評価結果をまとめ、ホームページに掲載している。		ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	①実施に関し、学則及び規程等を整備し実施している ②実施のための組織体制を整備している ③設置課程に関連業界等から委員を適切に選任している ④評価結果に基づく学校改善に取り組んでいる	3.5	①②学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。 ③④関連業界から推薦された方に委員の承諾を得、意見を頂いている。	評価結果に基づき、目標、具体策をたて学校改善に取り組んでいく。	学校評価報告書 学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	①評価結果を報告書に取りまとめているか ②評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3.5	①②評価結果は報告書に取りまとめ、平成29年度学校関係者評価委員会の意見も合わせて公表している。	①②評価結果は報告書に取りまとめホームページに掲載している。	ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価については、学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。	

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	評価	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<p>①学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開している</p> <p>②学生、保護者、関連業界等広く社会に公開している</p>	3.5	<p>①②学校の教育理念、教育目標・目的、卒業生像、学校の概要、教育内容はホームページで公開している。</p> <p>学生生活や学校行事、授業風景なども公開しているが、教員の講義風景は少なく、教育内容、授業風景など最新な情報が提供されていないことがある。</p>	<p>・学生の1日、授業中の様子、学生会など課外活動の様子等学校生活がわかるホームページとした。</p> <p>・広報委員会の活動推進</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育理念、教育目標・目的、卒業生像、学校の概要、教育内容はホームページで公開している。	高校生・中学生や保護者、教員、社会人等を意識して積極的な情報発信を戦略的に実施する必要がある。

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生、実習関連施設職員に対し、図書館の利用、図書貸し出し、公民館での地域行事や少年野球大会で駐車場を開放、在宅医療・看護関連の勉強会を実施している。</p> <p>学校施設（駐車場、教室等）・設備、体験セット等学校の機材・器具等を地域・関連施設・卒業生等に開放、貸出している。</p> <p>中学校・高等学校が行うキャリア教育、専門職業に必要な学習会で中・高校生を対象にした、思春期教育や妊婦体験に専任の教員を派遣している。老年看護学授業の一環で、学生と地域の高齢者とで、世代間交流会を図っている。</p> <p>外来講師、学生、教職員に対し、節電、節水等省エネ対策の周知、実践している。外部講師を招き、全ての教職員に対しSNS等の情報管理についての研修を行い、理解度テストを実施している。また全学生に対しては特別講演を開催し個人情報管理の重要性についての教育を行っている。その他にも講堂を開放し就職説明会や学校主催による講演会を行っている。</p> <p>小児看護領域のボランティアへ参加(サマーキャンプ)に参加している。2 学年社会福祉の科目で社会福祉活動の一環として、ボランティアを必修としている。全学生がそれぞれの施設や場所に参加している。</p> <p>総合災害・防災避難訓練へ学生ボランティアを派遣しており、学生ボランティア活動結果の学内共有は今後の課題とする。</p> <p>社会、地域貢献に関して、概ね達成できている。今後も積極的な活動が継続できるよう、教職員への意識づけのため年度ごとに周知徹底を図りたい。</p>	<p>社会、地域貢献に関して、概ね達成できている。今後も積極的な活動が継続できるよう、教職員への意識づけのため年度ごとに周知徹底を図りたい。</p> <p>2 学年すべての学生が 15 時間以上のボランティア活動を実施したが、活動結果の学内共有には至っていないため、今後の課題とする。</p> <p>小児領域のボランティアサマーキャンプに参加したが、一部の学生の声で、計画書の作成、準備等に時間を費やし、負担感を感じているとのことであつたが、今後も引き続き、主体的にボランティアを募りたい。</p>	<p>小児サマーキャンプ、ボランティア参加学生数；2 年生 11 名、1 年生 14 名</p> <p>第 2 回在宅医療的ケア講演会ボランティア数；2 年生 2 名</p> <p>高齢者交流会へ 1 学年 83 名参加。</p>

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	評価	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
<p>10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p>	<p>①学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放している ②学校の機材・器具を地域・関係業界等に貸し出している ③高等学校等が行うキャリア教育に教員等を派遣している ④小学校・中学校等の職場体験の受け入れている ⑤学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援している ⑥学校主催、共催等の講演会など、地域、実習施設に広く呼びかけている ⑦環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っている ⑧教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する研修、教育に取り組んでいる ⑨地域の受講者等を対象とした生涯学習を開講しているか ⑩医師会会員施設の教育訓練等を受託し研修等実施しているか</p>	<p>3.0</p>	<p>①-1 卒業生、実習関連施設職員に対し、図書館の利用、図書貸し出しを行っている。また、公民館での地域行事や少年野球大会で駐車場を開放している。 ①-2 障害児に対する在宅医療・看護関連の勉強会(情報交換会)を1回/月実施している。メンバーは医師、児童デイサービス担当者、MSW、地域コンサルタント、看護教員で行っている。 ②③⑤高齢者疑似体験セット、母性妊婦体験セット等の物品を、地域の中学校・高等学校や医療・福祉施設へ積極的に貸し出している。さらに、中・高校生を対象にした、思春期教育や妊婦体験に専任の教員を派遣している。 ④希望者に関しては積極的に行っている。 ⑥1 学年の老年看護学授業の一環で、学生全員と地域の高齢者の方々の世代間交流会を図り、お互いの理解につながっている。 ⑦外来講師、学生、教職員に対し、節電、節水等省エネ対策の周知、実践を行っている。 ⑧外部講師を招き、全ての教職員に対しSNS等の情報管理についての研修を行い、理解度テストを実施している。</p>	<p>地域の方々が、学校の施設を無料使用し、地域貢献、発展につなげるよう、引き続き、積極的に学校施設の提供、人材派遣等を行いたい。</p>	<p>学生便覧 学習支援 県内就職説明会資料</p>

10-36-1 の続き		<p>また全学生に対しては特別講演を開催し個人情報管理の重要性についての教育を行っている。</p> <p>その他にも講堂を開放し就職説明会や学校主催による講演会を行っている。</p> <p>⑨地域の受講者を対象とした生涯教育は実施していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県精神病院看護研修の場所として施設を提供し、その研修に本校教員が参加する連携を取っている。 <p>⑩地域の医師、児童デイサービス担当者、MSW、地域コンサルタント、看護教員障害児に対する在宅医療・看護関連の勉強会を1回/月実施している。</p>	<p>近隣の地域に働きかけ、各領域の教員の講座を開講できるように計画する。</p>	
-------------	--	---	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、学校施設（駐車場、教室等）・設備、学校の機材・器具等を地域・関連施設・卒業生等に開放、貸し出している。</p> <p>学校利用については、近隣の地域に積極的に働きかけることが必要である。</p> <p>中学校・高等学校が行うキャリア教育に教職員を派遣し、専門職業に必要な学習会、地域の高齢者の方々との世代間交流会、節電、節水等省エネ対策の周知、実践、全ての教職員に対しSNS等の情報管理についての研修、就職説明会や学校主催による講演会等を行っている。</p>	

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標		イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<p>①ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励している</p> <p>②活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備している</p> <p>③ボランティアの活動実績を把握している</p> <p>④ボランティアの活動実績を評価している</p> <p>⑤ボランティアの活動結果を学内で共有している</p>	2.7	<p>①②③④小児看護学領域のボランティアへ参加している。3泊4日の日程で、2年生5名、1年生2名がサマーキャンプに参加し、糖尿病患者へのケア(ゲーム、遊びなど)と家族の負担軽減を図っている。</p> <p>1回/年の献血の実施している。</p> <p>2学年の社会福祉科目で、社会活動の一環としてボランティア活動を必須としている。全学生が希望する施設や場所に参加している。</p> <p>総合災害・防災避難訓練へ学生ボランティアを派遣している。</p> <p>⑤の活動結果の学内共有は不十分である。</p>	<p>①について、小児看護学領域のボランティアへ参加。3泊4日の日程でサマーキャンプに参加したが、一部の学生の声として、計画書の作成、準備等に時間を費やし、その結果負担感を感じていた学生もいた。</p> <p>⑤について、2学年全ての学生が社会福祉の科目において15時間以上のボランティア活動を実施し評価を行っているが、全体的な活動結果の学内共有には至っていないため、今後の課題とする。</p>	<p>ボランティア証明書</p> <p>ボランティア応募票</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>ボランティア活動では、3泊4日の日程で小児看護学領域のサマーキャンプボランティアへ参加した。(2年生11名、1年生14名)さらには総合災害・防災避難訓練への学生ボランティアを派遣している。2年生によるボランティア活動では学生全員が参加し社会貢献につながったと考える。</p> <p>学生ボランティア活動結果の学内共有は不十分であった。</p>	<p>総合災害・防災避難訓練のボランティア派遣では、中頭病院に参加している。</p>